

卯月四月、新学期です。

学校では新年度の準備、授業の準備に大忙しの日々となります。

学校年度は日本では4月からですが、アメリカや中国では9月、お隣の韓国では2月からになっています。大学では9月入学生も結構ではじめていますが、高校まではまだ入学式、桜吹雪、ぴかぴかの一年生というイメージが強く、「入学」は春の季語にもなっています。

そんな季節、今月もネットワークの活動を報告するとともに、授業に役立つ情報を提供いたします。

【 1 】最新活動報告

3月の活動を報告します。

【 2 】イベントカレンダー

年次大会の案内、部会の案内などを紹介します。

【 3 】授業のヒント

【 1 】最新活動報告

最新のニュース、3月に行われた活動などを報告します。

■年次大会を開催しました。

日時： 2016年3月19日 13:00～16:40

場所： 同志社大学 寧静館五階会議室

参加者：38名

主な内容：第1部 新しい経済教育の実践提案 では、高等学校を中心に、アクティブラーニング（群馬県立赤城特別支援学校教頭上原功先生）、選挙の経済学（西九州大学准教授松井克行先生）、直接金融・間接金融（同志社大学教授野間敏克先生）に関する実践提案がされました。

上原先生は「公平な取引を考える」というタイトルで報告。お菓子の取引ゲームを紹介しながらアクティブラーニングのポイントをまとめられました。

松井先生は、「18歳選挙権と経済教育」という報告。政治教育に経済的視点を入れるべきと提案、社会的選択論をベースとした授業づくりを提起されました。

野間先生は、「直接金融、間接金融再論」で、金融の考え方と間接金融から直接金融へと展開する授業のながれを解説されました。

第2部、高校入試問題を活用した新しい中学経済教育 では、札幌市立簾舞中学校教頭山下豊先生、大阪府立交野支援学校四條畷校関本祐希先生が、全国の高校入試問題を分析されて、その特徴を抽出、そのうえで授業にそれらをどう活用するかを提案をされました。

大阪狭山市立南中学奥田修一郎先生は二人の提案を受けて、社会科で求められる知識と入試問題の関係を分析され、生徒がつまづく箇所に授業改善のヒントがあるのではという提案をされました。

第1部では参加者が実際にゲームを行ったり、第2部では膨大な分析資料が配付されそれに基づいた提案がされるなど、活発、有意義な年次大会となりました。

内容の詳細は以下のHPをご覧ください。

http://www.econ-edu.net/activity/symposium/201603Sympo_report.pdf

■夏の経済教室の日程と会場が決定し、準備が進んでいます。(既報)

名古屋中 8月4日(木) ウィンクあいち

名古屋高 8月5日(金) ウィンクあいち

大阪中 8月8日(月) 国民会館

大阪高 8月9日(火) 国民会館

東京高① 8月18日(木) 東証ホール

東京高② 8月19日(金) 東証ホール

東京中① 8月22日(月) 東証ホール

東京中② 8月23日(火) 東証ホール

若い先生向けのBasic講座をはじめとして、教科書を読み解くシリーズ、アクティブラーニングのすすめなど今年も授業で役立つ情報を提供する講座を目指します。講師、内容の詳細が決まり次第HPにアップいたします。

【 2 】 イベントカレンダー

*定例部会のお知らせです。(開催順)

■大阪部会 (No. 48)を開催します

日時：2016年4月9日(土) 18時00分～20時00分

場所：同志社大学 大阪サテライト

大阪市北区梅田 1-12-17 梅田スクエアビルディング 17階

内容、参加方法は以下をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/osaka/Osaka48flyer.pdf>

■東京部会 (No. 82) を開催します

日時：2016年4月14日（木） 19時00分～21時00分

場所：日本大学経済学部本館会議室

内容、参加方法は以下をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/tokyo/tokyo082flyer.pdf>

■名古屋部会（No.6）を開催します

日時：2016年4月23日（土） 15時00分～17時00分

場所：椋山女学園大学 現代マネジメント学部棟3階303講義室

地下鉄東山線「星ヶ丘」駅下車6番出口より左へ徒歩5分

内容、参加方法は以下をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/nagoya/Nagoya006flyer.pdf>

■札幌部会（No.15）を開催します

日時：2016年5月21日（土） 14時30分～17時00分

場所：キャリアバンクセミナールーム

札幌市中央区北5条西5丁目7 Sapporo55ビル5階

内容、参加方法は以下をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/Sapporo/Sapporo015flyer.pdf>

【 3 】 授業のヒント

■初っ端のインパクト

新学期に入り、新しい授業が始まります。中学校公民だと歴史がまだ残っていますから、新学期だからといって大きな変化は少ないかもしれません。高校では、新しい生徒、新しい教科書とすべてがシャッフルされた状態で始まります。

そこで重要なのは、最初の一時間目です。

生徒の立場からすれば、この教科は何をやるんだろうか、この先生はどんな先生なのか興味深々のはずです。

その生徒の興味に応えるためにも、初っ端のインパクトを与えることが大事になります。この頃はあまり聞かなくなっている「授業開き」です。そこで生徒をつかめば、一年間興味を引き付けることもできます。

この初っ端におすすめは、先生方のおはこの持ちネタをぶつけることです。自己紹介を延々したり、教科書を淡々と始めるのは避けたいところです。

持ちネタは、簡単なクイズ、ゲーム、パフォーマンスなど先生の得意技を披露するのがよいかと思います。最初から怒るのも一興かもしれません。こいつはヤバイと思わせるのも逆の意味でインパクトはあります。

クイズやゲームをやったら答えをださないで、「おあとは授業で」とやる手もあります。ひっぱるやり方ですね。

例えば、四人のディレンマのじゃんけんゲームをいきなりやらせて、そこから政治でも経済でもはじめるのもいいかもしれません。倫理や現代社会では、自画像を描かせて自分を何に例えるかというお題をだして回収するという手もあります。その時に、簡単な心理テストだよと言うとよいでしょう。答えをださなければ、生徒はいったいなんだったんだろうという疑問がのこり、当該の場所では、あの時のあれだったんだという発見に通じる可能性があります。自画像では生徒の意外な一面が分かって、生徒理解にも通じます。

この種のやり方のマイナスは二つ。ひとつは限界効用が逡減してしまうことです。最初は面白かったけれど、だんだんつまらなくなって生徒はそっぽを向いてしまうことも計算しておいてください。

もう一つは、三学期になって生徒がこちらの意図をわかってのってくるという収穫逡増型の授業を目指す場合です。この場合は一人張り切って授業をやると空回り感が残ります。

いずれにしても、「終わりよければ…」で、長丁場を乗り切る戦略を先生方それぞれのタイプに合わせて取り組まれるとよいと思います。なお、今回のテーマは千葉の杉田孝之先生との対話をヒントさせていただきました。(新井)

【 4 】編集後記 (みみずのたはこと)

最近、『徳川制度』(岩波文庫)という本を読みました。そのなかに寺子屋や昌平黌(聖堂)の話が出てきて、江戸の昔から教育が盛んだったことや今と変わらない勉強風景が紹介されていました。それから言えば、昨今の入試改革など教育を巡る議論が盛んですが、どんな時代でも教育の営みは変わらず、シンプルなのではないかと改めて思いました。(新井)

=====
登録に心当たりのない方、今後配信を希望されない方は下記会員ページよりお手続き下さい。

<http://www.econ-edu.net/aboutus/contact.html>



編集・発行 : 経済教育ネットワーク

(C) Network for Economic Education ◆◇